

見えない神を信じる

(一列王記17・8〜16)

一、神は語られる

8節をご覧ください。〈すると、彼に次のような主のことばがあった。〉と書かれています。〈彼〉とは、預言者エリヤです。〈主〉とは、天地を造られたおひとりなる神です。この言葉が語られた時、エリヤはどこで何をしていたのでしょうか。ヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに身を隠していました。少し前の3節に書いてあります。〈「ここを去って東へ向かい、ヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに身を隠せ。〉と。だが、そのように語ったのでしょうか。天地を造られた神です。その前の2節に書かれています。〈それから、彼(エリヤ)に次のような主のことばがあった。〉と。なぜ、そのように語られたのでしょうか。北王国イスラエルの王に、神の御意思を伝えたからでした。1節です。〈ギルアデのティシユベの出のティシユベ人エリヤはアハブに言った。「私の仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。私のことばによらなければ、二、三年の間は露も雨も降らないであろう。〉と。北王国の王アハブは、天地を造られた神を知りつつも、御意思に逆らうことを行っていました。

「逆らった」とは、民が神でない神々を拝み、神でない神々に仕えることを許していたことです。その原因は、アハブ王が国の繁栄を願って、異教徒で強烈な個性を持つイゼベルを妃に迎えたことにありました。こうしてエリヤはアハブ王に神の裁きの言葉を伝えました。さて、エリヤが身を隠したケリテ川のほとりは、ティシユベにありました。ティシユベ人エリヤにとっては、言わば、出身地の近くに帰ったことになり、7節をご覧ください。〈しかし、しばらくすると、その川が干された。その地方に雨が降らなかったからである。〉とあります。身を隠し、その川の水を飲みなさいと言われた場所で川が干されました。そして、主は言われました。「さあ、シドンのツアレファアテに行き、そこに住め。見よ。わたしは、そのひとりのやもめに命じて、あなたを養うようにしている。」(9節)と。

聖書を何気なく読んでいますと、何気に通り過ぎてしましますが、シドンのツアレファアテはどこにあるのでしょうか。地図をご覧ください。ティシユベからたいへんな距離です。シドンは、アハブ王の手の及ばない安全な場所でありましたが、それだけではありません。アハブ王をそそのかした妃イゼベルの出身地です。神は、ひとりのやもめに命じて、ただエリヤを養われたのではなく、何かを為さろうとされました。

二、やもめにあらわされた

10節をご覧ください。エリヤはたぎぎを拾い集めているひとりのやもめを見て、この人こそ神が語られた人だと分かったのであります。「水差しにほんの少しの水を持って来て、私に飲ませてください。」(10節)と語りかけました。それだけではありません。「一口のパンも持って来てください。」(11節)と言いました。私共が、エリヤに語られた神の言葉を知らなければ、何という凶々しさ、何という非常識な言葉となり得ます。ですが、エリヤは神の言葉を聞いて行動しています。

彼女はエリヤを見て、すぐにイスラエルから来た人であると分かったのであります。「あなたの神、主は生きておられます。」(12節)と語っているからです。そして、自らの置かれている窮状を切々と訴えます(↓12節)。もはや彼女は死を待つばかりでした。ところが、ここに、シドン人であった、ひとりのやもめに、天地を造られた神があらわれられます。13節、14節です。〈エリヤは彼女に言った。「恐れてはいけません。行って、あなたが言ったようにしなさい。しかし、まず、私のためにそれと小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。それから後に、あなたとあなたの子どものために作りなさい。イスラエルの神、主が、こう仰せられるからです。』主が地の上に雨を降らせる日

までは、そのかめの粉は尽きず、そのつぼの油はなくなるらない。』と。彼女はエリヤの言葉のとおりにしました。15節、16節です。〈彼女は行って、エリヤのことばのとおりにした。彼女と彼、および彼女の家族も、長い間それを食べた。エリヤを通して言われた主のことばのとおり、かめの粉は尽きず、つぼの油はなくなるなかった。〉

アハブ王の妃イゼベルはイスラエルに、自分が信じる神々へのいかがわしい行事を広めました。一方、主はイゼベルの出身地であるシドンでエリヤをおして、ひとりの名もないやもめの家で「わたしが主である。他に神はいない」と、ご自身の御力を示されました。

三、イエス・キリストによって

こういうわけで、神は偉大なる御力を備えておられます。その偉大なる神は、私たちが捉えようとしても、捉えることができません。ですが、神の側から人に語りかけられ、私たちが「神様、お語りください」と応えるなら、ご自身をあらわしてください。この偉大なる神が二千年前、だれも見えない形でご自身をあらわされました。そのお方はイエス・キリストです。

皆さまにお勧めします。どうか、主イエス・キリストを救い主として受け入れ、信頼してください。とても素敵な人生になります。